

留学報告書 ～強くなれた経験～

マドンナ大学
外国語学部生（長期）

私はアメリカ、ミシガン州リボニアにあるマドンナ大学に留学をしました。マドンナ大学は他大学に比べると小さな大学ですが人数が少ない分、1人1人がスポーツや勉強に励んでいました。大学には池があったり、リス、シカ、ウサギなど動物がいたり自然豊かな大学でした。気候も夏はカラッとした暑さで冬は毎日がマイナス気温で、雪景色が毎日見られました。何度かスノーストームで警報が出ているときもありました。日本では絶対に経験できない冬を経験しました。マドンナ大学の先生方も熱心な方が多く、たくさんのサポートをしていただきました。



授業はESLの授業から始まりました。教科としては、文法、リーディング、リスニング・スピーキング、ライティング、アメリカンカルチャーです。日本で英語を学ぶのとはまた違う教え方、考え方で日本とアメリカの英語学習に大きな違いを感じました。

また、アメリカンカルチャーの授業はアメリカ特有の文化や日常的に聞く英語などを学びました。サンクスギビングの時期にはパンプキンパイをごちそうになったりし、アメリカではこういう風にお祝いをするのだなと歴史とともに学ぶことが出来ました。

交換留学生は名古屋学院からのみで他のESLの生徒はサッカー留学生やアメリカで学位を取るために来ている人達でした。時にESLの先生が企画してくださり、ダウントウンデトロイトのアイススケート、リトルシザーズスタジアムのアイスホッケーの試合やバスケの試合を見に連れて行ってくださったりしました。

次の学期からは現地学生とともに授業を受けました。私は、社会学、コミュニケーション学、デジタルアート、リサーチペーパーライティングを受講しました。リサーチペーパーライティングはESLの一環で、自分で決めたお題でそれについて調べ、APAフォーマットを用いてリサーチペーパーを書くものでした。私はこの授業につまずきましたが、何度も質問をして理解しすべてを終わらせるととても達成感を感じました。

社会学については歴史、現代史すべてを理解している必要があり、加えてすべてアメリカからの視点になるのでとても難しく感じましたが、一番好きな授業でした。文化、歴史、思想が全く異なる中ですぐにそれが何なのかを理解するのに苦労しましたがアメリカで何かを学ぶという事では一番様々なことを学ぶことが出来た科目だったと思います。

私は冬学期からアメリカ人のルームメイトに変わりました。秋学期は日本人同士になってしまったので何度も申請をしてルームメイトの変更をしてもらいました。そこから徐々にルームメイトと仲良くなっていき毎日話すようになりました。



日本にいるときからコミュニケーションには自信があったのですが、寮でずっと同じ空間にいるとなると今日は何を話せばいいのだろうか、相手はどのくらい話す子なのかなど、気を使うこともとても多く初めは少し難しく感じることもありましたが、さすが話しかけたことでルームメイトも心を開いてくれて私と一緒にダイニングホール

に行かないかと誘ってくれました。そこから一気に仲良くなり毎日のように夜にNetflix

を見たりショッピングに行ったりカフェに行ったり図書館に勉強をしに行ったりしました。また、日常会話が以前よりも倍以上増えたので私の英語力もここでより上がったと思います。プレゼンテーションの練習で複雑な発音があった時や、エッセイで困ったときなどルームメイトに質問し教えてもらったりしました。彼女の地元だったこともありたくさん大学周りのこと、ミシガン州のことなど様々なことを教え、連れて行ってくれました。半学期しか一緒に暮らしていませんでしたが、最後の別れはとてもさみしく私の帰国を知って彼女から連絡がきたとき、彼女のメールのとても心温まる内容に感動しました。

先ほどの話でもあったように、ルームメイトの変更、寮費、ミール代の支払いについては少し苦労があり、日本と違って自分でたくさん動かないと全く取り合ってもらえません。メールは相手が気付くまでひたすら送ったり、会う予定を立てても会えなかったりしました。ですが、支払わなくていい授業料や駐車場代などまで請求されていたので自分で気が付いて話をする必要がありました。この経験はとても大変でしたが相手を説得させ正確な数字を出してもらわなければならなかったので私にとって大きな経験になりました。海外で生活するうえで「少しでもおかしなことは言う」ということはとても大切なことだと感じました。

海外だからと妥協してしまいそうなことでも言うことと解決することも多かったと感じます。何事も受け身になってしまいがちなのは、日本人の良さでもあり悪いところだと私は思うのでこのような様々なアクシデントや経験は自分を受け身の日本人から脱却してくれたのではないかと思います。交友関係もそうですが自分が外国人なのだから自分から動くという気持ちを常に持っていたので、新学期直後にあった Homecoming Dance や寮内などで話しかけたり話しかけられたりしたのは本当に自分から動いてよかったなと思っています。自分から行動することはどのような場においても大切なことだと思うのでこれからも意識し続けるべきことだと思っています。

また、自分の力を試したいということと、人として強くなりたいという気持ちで冬休みにフロリダ州マイアミに一人旅に行ったのもまた自分に自信をつけた一つの理由だと思っています。そこでもすべてのことを一人で解決したわけではなく、現地の方々に助けられて自分がしたかったことを達成していきました。スペイン語を半分以上の人が話すというほぼ南米のような地域だったので一人歩くのが怖いというところもありましたが、それよりも出会った方々の温かさにとっても感動しました。やはりそこでも人との繋がり、コミュニケーションの素晴らしさを感じました。そこで出会ったキューバ人のおばあちゃんとは

次マイアミに来るときは私の家に泊まりなさいと言ってくださるほどで、ミシガン州に帰っても連絡を取りあっていました。この留学経験が無ければ異国で一人旅を試みようという発想もできなかったと思います。これはこの長期留学中の成長のおかげで決断できたんだろうと思いました。

この長期留学は私の人生で一番自分自身に影響のある期間だったと思います。世界の広さ、自分が知らないことの多さ、自分がやりたいことはなにかを学んだ 10 か月間でした。この留



学はこれからの私の人生で何か壁が生じてでも後押しをしてくれる経験となるくらい自分に自信を与えてくれました。この留学でできた縁、学び、考えをこれからも大切にしていきたいと思っています。このような経験をさせてくださった両親、名古屋学院大学、マドンナ大学への感謝を忘れずに今後の自分の将来に活かしていきたいです。